真の日本文化を究め、日本人の固有の心情を捉へようとした先学の偉業を回顧する。

国学和学研究資料集成

全八巻

中澤伸弘・鈴木亮 共編・解題

クレス出版

刊行にあたつて

徳川時代中期に興つた「国学」と言ふ学問は、儒学が官学とされてゐた時代に、我が国の古典の文献によつて我が国独自の文化を見直し、日本人の固有の特性を見出さうとした学問であつた。それは、神道の思想をはじめ日本文学、歴史学、言語、法制、有職故実など実に多岐に亘る総合の学問であつた。当時は国学とは言はれず、主に「古学」と称され、また広い意味で日本について学ぶことから「和学」とも称された。後に国学者（和学者）と称されるこの時代の先学、研究者はこのやうな「国学・和学」のあらゆる方面で活躍し、研究を深めては著書を公刊し、また子弟を教育するなどして多くの人びとがこの学問に親しんだのであつた。国学の思想を考へれば明治維新への潮流は国学に関する思想がその一翼を担つたとも理解されるが、それだけではなく、明治以降の我が文運の発展はこのやうな地道な国学の学問成果による土台の累積の上に築かれたものであることを認識しなくてはならない。国学はその点で今日の文系の学問の基礎に根付いてゐて、なほ新鮮な学問であると言へるのであり、ここに本書の編纂刊行の意義がある。

近年国際化が叫ばれる世界の中において、一方では我が国独自の「日本文化」への関心が高まりつつもある。この時代であるがゆゑに真の日本文化を究め、日本人の固有の心情を捉へようとした先学の偉業を回顧する必要があらう。戦後ややもすると忘れられてゐた我が国の精神を今一度見つめ直してはいかがであらうか。

ここに集成した書物はこれらの「国学・和学」に親しんだ先学の伝記を始め、その学問研究の足跡や成果を纏めたものであり、今日なほその資料的価値は高くこの方面に興味ある者の必備の書物である。本書を繙くことによつて改めて今「国学・和学」の学問の特性を考へて頂くことに資するなら幸ひである。

平成二十年初夏

柿之舎　中澤伸弘

国学和学研究資料集成 全八巻

第一巻
増補　三哲小伝
大寂庵立綱撰、江沢講修増補／天保2年

古学道統図
万葉堂主人編／安政初年

近世歌人略系
中川長延編／安政7年

古学小伝
清宮秀堅著／玉山堂／明治19年

第二巻
国学の研究
河野省三著／大岡山書店／昭和7年

第三巻
国学史の研究
河野省三著／畝傍書房／昭和18年

第四巻
国語学史の研究
鬼沢福次郎著／大同館書店／昭和4年

第五巻
近世国文学之研究
弥富破摩雄著／素人社書屋／昭和8年

駿河古学小史
築地元太郎著／北村三郎／昭和29年

第六巻
浪華の歌人
木村三太郎著／全国書房／昭和18年

近世文芸復興の精神
山川弘至著／大日本百科全書刊行会／昭和18年

第七巻
近世に於ける神祇思想
藤井貞文著／春秋社松柏館／昭和19年

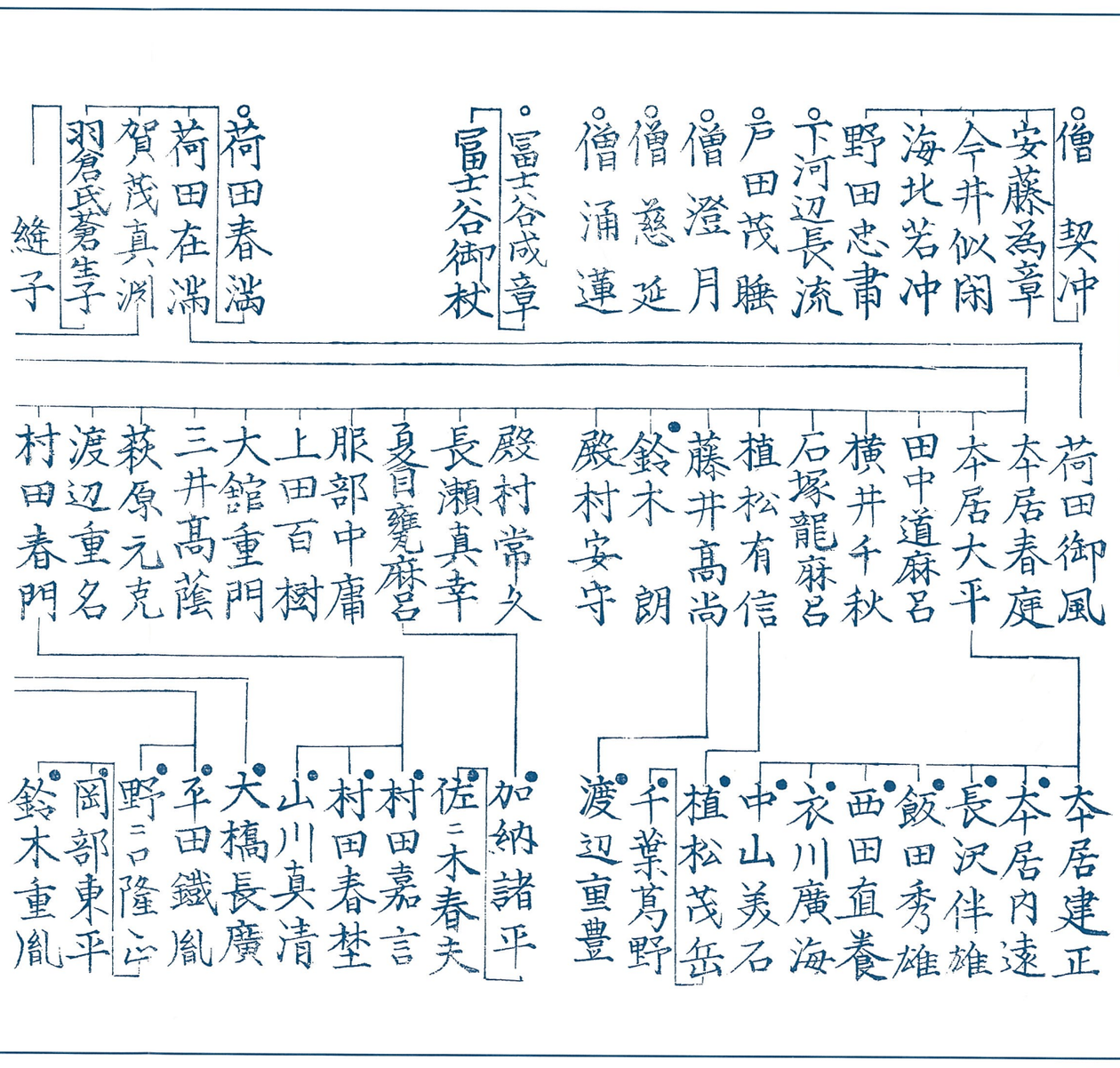
神道思想とその研究者たち
渡邊国雄著／渡喜／昭和32年

第八巻
倭学戴恩日記
小山田与清著／早稲田大学出版部／明治35年

歌人書簡集
室谷鉄腸編／播仁文庫／大正15年

名家書翰集抄
弥富浜雄著／歌文珍書保存会／大正7年

第一巻　古学道統図



第二巻　国学の研究

國學は文學・道德・宗教等に關する學術的刷新、並に思想的改善の運動であつて、且、法制・歴史・教育等にも亦その研究と活動とが及んでをる。江戸幕府時代の中期に當つて、文教の進歩と國民の自覺とが相結んで、久しく國民の思想と文化とを感化してをる所の漢文明と印度思想とに對し、又舊來の煩瑣・低級な學風に對して、反抗的・革新的・復古的の學説が唱道せられるに至つた。之が即ち此にいふ國學であつて、政治史上にも、勤王論の動機として、將た明治維新の價値多い一要素として、重大視せられてをるものである。

國學は、和歌・和文・國語・神道・國民道德等を刷新し、古典・有職故實・神社・佛教等に關する、研究方法を改革して、我が學界乃至一般思想界に、多大の貢獻を爲した點から觀て、獨り政治史・神道史のみならず、我が國の道德史・神祇史・文學史・語學史・法制史・佛教史等にとつても、重要な現象として、其の研究を試みなければならない。殊に我が思想史上、幾多の興味ある問題を提供しつゝあることに注意せねばならぬ。

國學の概念と其の起源とを明かにする爲に、茲に暫く其の用語の歴史について、述べてみようと思ふ。抑も、遠く令(リヤウ)の規定に見える國學といふものは、固より、京都の大學寮に對する諸國の學館を指して稱するものであつて、此にいふ國學とは、全く何等の關係のないものである。然らば、漢學などに對して、我が國の學問を國學と稱したのは、何時(イツ)ごろからであらうか。世に菅原道眞公の撰ばれたといふ菅家遺誡なるものがあるが、其の中に、略ぼ、此の意味に於ける國學の稱が出てをる所からして、之を以て、其の初見とする者が少くない。併しながら、この所謂、菅家遺誡が、果して、菅公の手に成つたものであるか否かは、頗る疑問であつて、現存のものは、古くとも足利幕府時代中

第五巻　駿河古学小史

鈴屋関係のことども

本居宣長翁当時の府中には既に栗田民部土麿の系が認められ、其教を受けてゐた人々が尠からずあつて、專ら古学に萬葉に眞摯な研究があつたことは明らかである。栗田土満の叔父に府中の宮ヶ崎町に住した栗田儀左衛門は通稱嘉兵衛といふがある。「翹

■本書の特色

本集成は、国学及び和学に関する文献の中で今日なほその資料的価値の高いもの、また稀覯の部類に属するものを選んだ。参考の程度に内容の概要を左記に記す。

第一巻には国学の学統に関する著作、また国学者歌人の伝記に関するものを編んだ。立綱著、江澤講修補になる契沖、真淵、宣長の略伝記である『三哲小伝』をはじめ、『古学道統図』『近世歌人略系』、また国学者の伝記集として最初のものでありながら今日なほ資料的価値の高い『古学小伝』を収めた。

第二、三巻には国学の研究者として名高い、河野省三（國學院大學学長、埼玉玉敷神社宮司）の国学に関する著作を収めた。『国学の研究』は国学和学に関しての基本的且つ重要な著作であること論を待たない。

第四巻には国学者の語学、国語学方面に関する著作を解説、また論じた、鬼澤福治郎の『国語学史の研究』を収めた。言葉は国学者が執着したわが国独自の文化であり、本書はその近世に於ける発展を詳解してゐる。

第五巻には国文学の方面からみた国学者の活動として、弥富破摩雄『近世国文学之研究』と静岡県の国学の展開を描く稀覯書『駿河古学小伝』を収めた。静岡と言ふ一地方の国学史ではあるが、これは或いは巨視的に見た場合全国にも及ぶ国学史と言へるものである。今後このやうな地方史からみた国学の全国的展開の研究は重要であると思ふ。

第六巻には国学の和歌の分野に関して、ことに大坂にその視点を絞り、木村三太郎『浪華の歌人』と、契沖以来の近世国学を文藝復興と捉える山川弘至の評論を収めた。

第七巻には国学の神祇神道方面への研究の展開を述べた著作二点を収めた。藤井貞文『近世に於ける神祇思想』は言はば国学の展開により再興なつた諸祭儀につき論じたものであり、また渡邊国雄『神道思想とその研究者たち』は国学をも含めた神道思想について述べたものである。

第八巻には主に研究資料として価値の高い稀覯書三点をあげた。高田（小山田）與清の『倭学戴恩日記』は江戸の国学者であり蔵書家であつた與清の小石川水戸藩邸への和学教授の日記であり、『歌人書簡集』『名家書翰集抄』はともに国学者歌人の研究に資する重要な文献でありながら稀覯書のためあまり注目されずにあつたものである。

これら全八巻を通して、近世の国学和学の多方面にわたる日本文化研究の視点が理解できる筈でありその文献的価値は高いものだと言へる。また当然他にも本集成に収録すべき国学和学に関する著作はあるが、近年覆刻されてゐた為に除いたり、重要なものながら御遺族の御許可が戴けなかつたものもあることを付記しておく。

第八巻　倭学戴恩日記

屋」と呼ばれる商賈であつた。この関係から土麿の弟の通稱幸助、即ち貞良が分家の養子となり、それが後に別家して「油屋」といふ新家を創めた。

この貞良のことは道俣居翁とも云ふて府中にては斯学の先輩をつけた人とも称すべき人で、土麿と共に東西の巨擘として知られ、府中では斯学者の中心を爲してゐる狀である。其証左として今、菅雄の土麿に宛てた書狀（尾澤只一氏所藏）を掲げることゝする。

御芳簡辱く拝見仕候高館御揃益々御多福被爲入候由承知奉賀候　次に小子皆々無事罷暮矣間御高意易思召可被下候。春已來依年度々参上預御教諭矣段難有仕合に奉存候。

神代紀御註解御出來松坂江被遣矣由誠に大慶至極不過之奉雀躍候。御染筆短冊難有拝

六日御次にまうのぼり柴田源助して昨日の恩賜のよろこびを申し倭歌を奉る

ことしもれいのごとおほん使人松の下庵訪來て扶桑拾遺集注釋つかうまつれる御褒奬の白銀五ひらくたしたまはりけれは

平小山田與清

庵の松は白かねの花
咲そひぬ八千代榮えん

君がめくみに

七日賀正の禮にまうのぼる平田篤胤前田夏蔭などはやうまゐりて一間所にありまはしありて余をは御同朋河合瓢阿彌まゐるべし例よりもおくまれる所にて拜賀せしむこは大廊下といふ所にて

柳營御旗本衆の次席也以前には御玄關の板間にて前の高き處の上席は余次に篤胤夏蔭いし〳〵御目見醫者也後のひきき所は猿樂の輩なりき今日もなほ篤胤夏蔭は御坊士豊田安喜指揮して例の御玄關の板間に著しむ拜賀はてゝもとの一間處につとへるに富岡利和とみの事とて御問のむねを傳ふ廼御いらへ奉る○執と

国学和学研究資料集成　全八巻

中澤伸弘（東京都立小岩高校教諭、財団法人無窮会特別研究員、元國學院大學文学部講師）、
鈴木　亮（東京都立深沢高校教諭）　共編・解題

第一巻　増補 三哲小伝、古学道統図、近世歌人略系、古学小伝
第二巻　国学の研究
第三巻　国学史の研究
第四巻　国語学史の研究
第五巻　近世国文学之研究、駿河古学小史
第六巻　浪華の歌人、近世文芸復興の精神
第七巻　近世に於ける神祇思想、神道思想とその研究者たち
第八巻　倭学戴恩日記、歌人書簡集、名家書翰集抄

A５判／上製函入／クロス装　揃定価95,000円（税別）
平成20年８月末日刊行　ISBN978-4-87733-430-7（セット）　C3310

近世和歌研究書要集　全八巻

中澤伸弘、宮崎和廣、鈴木　亮 編・解説

第一巻　近世和歌史
第二巻　徳川時代和歌の研究
第三巻　幕末の歌人、幕末歌壇の研究
第四巻　近世和歌の新研究、近世女流歌人の研究
第五巻　文学遺跡巡礼 抄（一）
第六巻　文学遺跡巡礼 抄（二）
第七巻　続々歌集解題餘談　壱、弐
第八巻　近世和歌書誌刪補、類題和歌集私記
揃定価95,000円（税別）　ISBN4-87733-301-0（セット）

類題和歌 鰒玉・鴨川集　全六巻

朝倉　治彦 監修　中澤伸弘、宮崎和廣 編・解題

一　類題 鰒玉集　初編・二編・三編
二　類題 鰒玉集　四編・五編・六編
三　類題 鰒玉集　七編・作者姓名録
四　類題和歌 鴨川集　初編（太郎集）・次郎集・三郎集
五　類題和歌 鴨川集　四郎集・五郎集
六　類題和歌 鴨川集　詠史歌集　初編・二編
揃定価95,000円（税別）　ISBN4-87733-322-3（セット）

〒103-0001　東京都中央区日本橋小伝馬町14−5　メローナ日本橋
☎03-3808-1821　FAX03-3808-1822　http://www.kress-jp.com/
株式会社クレス出版

●書店名